

安波賀春日神社の神主である吉田運吉の家には代々三条小鍛冶宗近作の刀が秘蔵あばがかすがされていた。享保の頃、幕府の寺社奉行よりお尋ねがあり、小狐丸影こぎつねまるであるという書類を提出したことは、越前名蹟考めいせきに詳しく書かれている。寺社奉行よりお尋ねがあつたといつても、公卿くぎようの方からもともと所持していた小狐丸が、当時越前の春日神社にあるという風聞があり、幕府から尋ねてもらえないかと依頼があり、やむを得ず寺社奉行よりお尋ねになつたということである。内密ではあるが、寺社奉行からもたとえ真打ちの小狐丸であつても、小狐丸の影打ちと認め、書類を提出するようにと、通達があつたという話である。このことは吉田運吉より伝え聞いた話である。

(後略)